

2024年度第4回生涯教育実務研修 受講後アンケート集計結果

「腎臓の役割とCKDガイドライン2023(栄養)」について

【講師】 新光会村上記念病院 栄養科科长 北林 紘 氏

【配信期間】 2024.09.19~09.25

受講申し込み者数 : 191 名

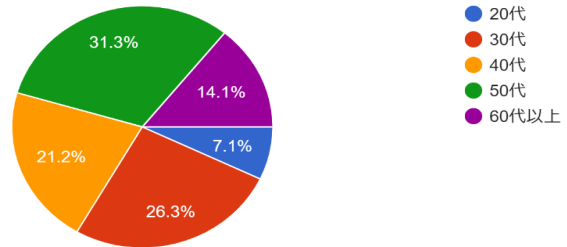
再生回数(延べ) : 422 回

アンケート回答 : 98 名

①受講者年代 (人)

1.20代	7
2.30代	25
3.40代	21
4.50代	31
5.60代以上	14
合計	98

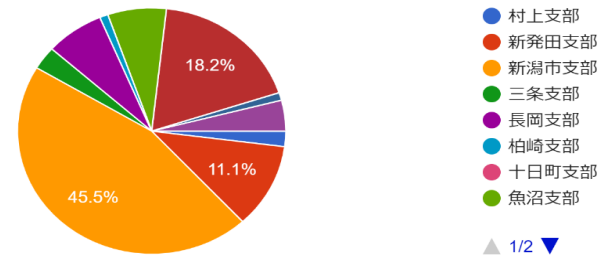
年代



②所属支部 (人)

1.村上	2
2.新発田	11
3.新潟	45
4.三条	3
5.長岡	7
6.柏崎	1
7.十日町	0
8.魚沼	7
9.上越	17
10.佐渡	1
11.県外・会員外	4
合計	98

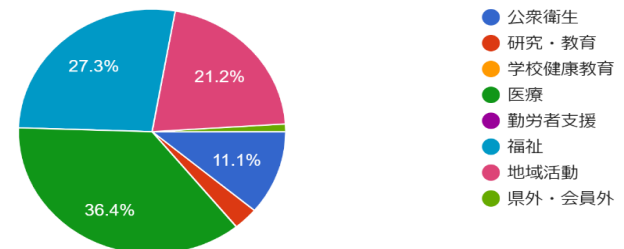
所属支部



職域

③所属職域事業部 (人)

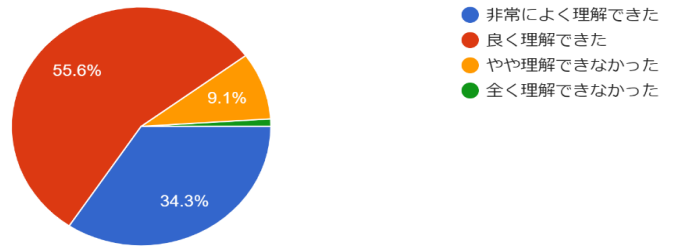
1.公衆衛生	11
2.研究・教育	3
3.学校健康教育	0
4.医療	35
5.勤労者支援	0
6.福祉	27
7.地域活動	21
9.県外・会員外	1
合計	98



④ 理解度 (人)

1.非常によく理解できた	33
2.良く理解できた	55
3.やや理解できなかった	9
4.全く理解できなかった	1
合計	98

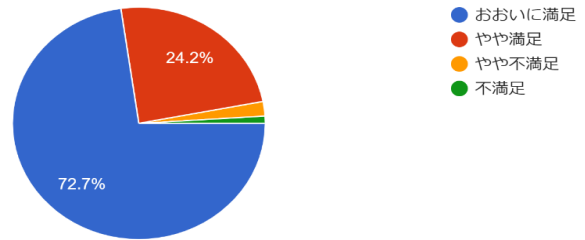
▶理解度



⑤ 満足度 (人)

1.おおいに満足	71
2.やや満足	24
3.やや不満足	2
4.不満足	1
合計	98

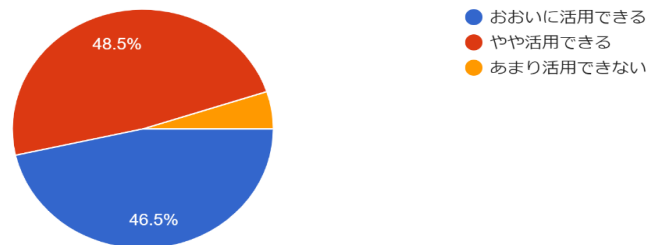
▶満足度



⑥ 実務に役立てられるか (人)

1.おおいに活用できる	45
2.やや活用できる	48
3.あまり活用できない	5
合計	98

▶実務に役立てられますか？



⑦ 意見・感想の概要 (同意見の人数)

○良かったこと

- ・基礎的な腎臓の働きや構造のおさらいから最新情報まで満載の内容であり、且つ、わかりやすかった。(8人)
- ・大変勉強になった。(6人)
- ・最新情報を学ぶことができた。(6人)
- ・管理栄養士が指導及び実務で押さえておくべきポイントが理解しやすくまとまっていた。(2人)
- ・エビデンスを元にお話をしていただいた。(4人)
- ・基本的なことから解説があり、理解できた。(4人)
- ・資料が見やすく理解しやすかった。(3人)
- ・腎臓に関して苦手意識があったが、学び直したいと思える講義だった。(3人)
- ・現場にすぐ活かせるような内容だった。(3人)
- ・難しいところが多かったが、学びになった。(3人)
- ・食事・栄養に特化したガイドラインの説明がありがたかった。
- ・きめ細かく説明があり、理解度が高まった。
- ・専門性の高い講義だった。
- ・透析導入後の患者さんの実際の声を聞くことができた。
- ・穏やかな話し方がとても聞き取り易かった。

○受講後の感想

- ・常に学ぶ姿勢の大切さを感じた。(7人)
- ・10/10～の栄養CSセミナーも楽しみだ。(3人)
- ・今までの指導とは異なる局面にきたと感じた。
- ・CKDガイドは購入したものの栄養の項目だけしか見ておらず、反省した。
- ・私達栄養士仲間へのメッセージが印象的で心に響いた。
- ・講師の先生が、管理栄養士であり、医学博士であることに驚いた。大変刺激になった。
- ・私たちはもっと臨床報告と研究を提出していくべきと、背筋が伸びる思いがした。
- ・この期間だけでなく、何度も視聴したい講義だった。

○現場活用について

- ・在宅では、腎機能が低下している場合が多い。腎臓の基本と新しい展開が勉強できた。
- ・市町村の保健指導の際、対応に悩んでいる担当者が多い。今回の情報はとても参考になった。
- ・地域ケア個別会議で感じている『薬剤師との連携』を強化したいと思った。
- ・今回の講義を受けて嘱託医と検討の機会を持つことができた。
- ・障害者支援施設で、血液透析を導入された利用者様と過ごしている。エビデンスに基づき意味のある食事療法に努めたいと改めて感じた。
- ・腎臓病栄養指導の機会はないが、改めて学習ができて良かった。
- ・今まではCKDの栄養管理を求められたことは少なかった。今後対応が必要な時のために勉強できて良かった。

○印象的だった講義のキーワード

- ・カリウム、たんぱく質(8人)
- ・葉(4人)
- ・腸内細菌(3人)
- ・GFRスロープ(4人)
- ・他専門用語(2人)
- ・資料の紹介(2人)

○受講状況について

- ・vimeoとの相性が悪く、5分ほどしか見るができなかった。
- ・資料のパスワードが認証されず、印刷できなかった。

○講師への質問

- ・北林先生は実際に栄養指導の場面で低たんぱく米や特殊食品を勧めていますか？
また、摂取するたんぱく質量を計算することについて、北林先生は実際患者さんに(その患者さんに応じて対応は異なると思いますが、)計算することを求めていますか？摂取するたんぱく質量を計算して管理していく事が大事と強く仰る先生もいます。

《講師からの回答》

低たんぱくご飯の使用はその方の年齢や意欲、嗜好に合うか、また、経済的な状況をみて勧めます。

他にはBUN高値などがあれば検討すると思います。

患者さんにたんぱく質の計算を求めるかは、やはり個々の例で異なると思います。

私の病院は腎臓専門医がいて、専門的に腎外来をしているような病院ではないので、そこまで厳格に自己管理をするような指導は行っていないのが現状です。

- ・当施設での腎疾患をお持ちの方について、カリウム制限について迷う事があります。カリウム制限の方でもカリウムの制限値内であれば通常提供している献立に生野菜や生果物が含まれていても提供も可能と考えてよろしいでしょうか。今回の研修でカリウム制限についての考え方を学ぶ事ができ医師や医務と相談し、

制限があっても可能な限り他の方と同じ食事を摂っていただけるよう努めて参りたいと考えています。

《講師からの回答》

基本的には、病院の給食で提供されるくらいの量でしたら生野菜も生果物も提供可能と思います。

外来でも、さすがに食べ放題を指導するのは怖くてできませんが、生野菜は1日1回小鉢に入るくらいにしましょうなどと伝えています。

果物も、量を食いたいなら缶詰の方がいいですが、みかん1個、りんご半分など抑えられるなら生で大丈夫と伝えています。

残念ながら量の根拠はありませんが、とりあえず禁止とは言わないようにしています。